

## SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム（シナリオ創出フェーズ）

### 令和2年度採択プロジェクト 事後評価報告書

2023年（令和5年）3月

研究開発プロジェクト名：「小水力エネルギーを活用した災害復興時における主体形成と持続的むらづくりのシナリオ形成」

研究代表者：島谷 幸宏（一般社団法人九州オープンユニバーシティ 代表理事）

協働実施者：村川 友美（株式会社リバー・ヴィレッジ 代表取締役）

実施期間：2020年（令和2年）10月～2023年（令和5年）3月

#### 総合評価

一定の成果が得られたと評価する。

本プロジェクトは、山間部の河川域など高齢化や人口減少が進む地域における資源として、身近で、復興事業の関与が可能で、共有資源である水に着目し、住民が自ら主体的に実践できる3Dプリンターを用いた水車による小水力自家消費モデルを導入する過程で、村づくりのための勉強会・ワークショップ、小水力発電を用いたシステム設計活動などを通じ、地域づくりの主体を形成し、その主体が地域の将来を描き、地域主体による地域資源の活用による持続可能な村づくりにつながるシナリオを形成するものである。

中山間地域の水害被災地での復興支援やコミュニティ再構築に、身近な水資源を活用するコンセプトや目指す主体形成という趣旨は評価できる。住民の主体的な参画を促すプロセスについて理解し、想定されていることから、多地域展開できる基礎は整っているものの、タイミングや動機付けなど、手法を確立するための取り組みについてはさらに検討が必要であると感じられる。関係者の共感を呼ぶ取り組みであり丁寧に取り組まれているため、引き続き地域のニーズに寄り添いながら主体形成を深めて行くことを期待する。

#### 項目評価

##### 1. 目標の妥当性

目標は妥当であったと評価する。

災害対策と村づくりにおいて、地域資源を用いた地域における主体形成に着目した点は優れていたと評価する。一方で、小水力発電による村づくりによって、水害被災地にどのような受益があり、どのように変わるのか、その姿をしっかりと表現することについては、さらに検討の余地があり、今後を期待する。

##### 2. 研究開発プロジェクトの目標の達成状況および研究開発成果

プロジェクトの目標は達成されたと評価する。

住民の主体形成に関しては、プロジェクト・メンバーが丁寧な関与をしており、小学校跡地利用構想との関連でかなり進んでいる。主体形成プロセスにおいて有効・必要となるツールや場、イベントの設計とそれらを組み立てた全体シナリオの作成も概ねできたと言え、その点を評価する。ジェット水車の実用性・耐久性試験は部分的に成功している一方で、新型コロナウイルス感染症対策の影響を受け、地域住民との接点を設けることが困難だったことが大きな要因ではあるものの、結果的にジェット水車の導入が先送りされたこと、また、導入過程での参加者構成もより拡大されることが望ましいことから、今後はこの解決に向けた道筋を明確にし、活動展開されることを期待する。

### **3. 研究開発プロジェクトの運営・活動状況**

プロジェクトの運営・活動状況は妥当だったと評価する。

復興の過程にある地域において、丁寧なコミュニケーションプロセスを取っており、研究ありきではなく、地域の主体形成やその過程であがってくる優先順位の高い課題に対しても柔軟な対応がなされていたと評価する。一方で、事業化や他地域展開のために重要となる、ジェット水車のパッケージ化については、目標とした発電量・耐久性の達成に課題を残しており、この目標の達成は極めて重要となるため達成に向けた展開を期待する。

### **4. プロジェクト終了後の事業構想(研究開発成果の活用・展開の可能性)**

プロジェクト終了後の事業構想は概ね描けていると評価する。

主体形成のプロセスが示され今後の展開が期待でき、被災前からの取り組みが地域内の主体形成につながるという視点も興味深く、今後被災地域以外の中山間地域への展開も期待できることを評価する。一方で、他地域に展開した際、これまで実績を積んだようなきめ細かなワークショップを誰がどのように運営していくのかなど、運営資金も含めた事業システムの構築にはまだ課題を残しており、今後を期待する。

### **5. その他**

なし